

平成30年度 教員地域貢献活動支援事業(協働型) 成果報告書

課題名	地域防災・福祉の視点からの地域防災拠点運営				
研究者	代表教員氏名	国際総合科学部 准教授 石川 永子			
	事業ユニットの構成(代表者除く)	国際総合科学部 准教授 三輪 律江			
提案者	横浜市西区役所総務課				
課題					
現状では、災害発生時の拠点運営を行政に頼りがちな地区も多く、自主的な活動への具体的なメニューや気づきを促す手法が必要となっている。また、福祉的な配慮が必要な人を含む多様な避難者への対応を、地域住民や関係者で連携してすすめていくための、イメージの共有と具体的な活動メニューが必要となっている。西区内の多様な地域性、各拠点の課題や人材を含めた地域資源の把握と関係者への共有、見える化が必要となっている。					
課題解決の方法					
①高齢社会における災害時の地域の自発的な活動を促す福祉・防災ネットワークの組織の形成と、西区の特性(住商混在、横浜駅近接地区等)に合う被害想定シナリオに基づく地区防災計画作成と拠点活動訓練メニューの作成・実施支援、検討の為に住民・関係者アンケート調査実施・分析 ②親子など多世代が参加したくなる地域拠点訓練の企画・実施・教材化 ③地域・地区担当区職員が情報共有可能な「地域防災拠点カルテ」のモデル地区での作成と区内12拠点での区職員による作成・運用支援 ④指定外避難所となる可能性の高い地域施設(公民館・自治会館・空家等)での実験的な整備・平常時からの福祉防災寄合いの場としての活用検討					
研究実績報告(スケジュールと内容・成果)					
提案者の西区役所と協議し、地域防災拠点の役員および拠点担当の区役所職員が共有できるカルテの作成を行い、それらの評価を行った。具体的には、1)西区防災担当と数回打ち合わせをしてカルテ案の内容や形式を決定した。2)拠点活動を活発に行っていて、役員等と拠点運営や災害時の地域支援について意見交換が可能な、岡野中学校地域防災拠点をモデル地区とし、3回の役員ヒアリングと1回の図上訓練の結果をもとにカルテを作成した。3)2)をもとに区内全拠点のカルテ案(区拠点担当職員が記入可能なところは書き込めるよう空欄)を大学側で作成し、区担当職員に記入して暫定カルテを作成、4)3)についてカルテ説明回と、記入後の報告&カルテの評価に関する意見交換の会を行う。5)4)の参加者にカルテの運用に関するアンケートを回答してもらい、大学側で分析した。					
連携機関(提案者以外)	(岡野中学校地域防災拠点委員会)				
得られた効果及び自己評価					
西区役所は当初、拠点運営強化といっても、何を行えばよいか具体的なイメージを持っていなかったもので、具体的なコミュニケーションツールとしての拠点カルテを作成した。モデル地区では、住民役員から多くのアイデアがでて、見本となるようなカルテが完成した。しかし、他の拠点では活動の温度差があったり、区職員の引き継ぎ用と住民役員との事実共有や活動のチェックリストとしての目的を一緒にすることは難しいことなど、実用に向けて多くの課題を抽出できた。また、全拠点の担当職員がカルテの報告という場で、課題や状況を共有し議論する場をつくることができた。					
今後の課題と展開					
<p><今後の課題> カルテの実用化については、実質的な担当係長が他の区役所に異動になったこともあり、事業の継続は難しいのではないかと考える。また、拠点運営に関する、住民には共有しづらいトラブルや配慮点などの区担当引き継ぎ資料としての使い方や、他の防災関連資料との棲み分けなど、課題は多く示された。</p> <p><今後の展開> 西区の担当は異動したこともあり継続は困難であるが、今回の結果を受け、他の自治体内などの拠点委員会等と協力して、カルテの改善および、拠点の運営の能力向上のための図上訓練や、特に福祉防災分野の活動に活かしていきたいと考えている。</p>					
研究発表(投稿準備中、投稿中、発表予定を含む)					
<p><発表> H31年度 建築学会大会梗概集(予定) <報道機関による紹介></p>					
研究成果による知的財産権の出願・取得状況					
知的財産権の名称	発明者名	権利者名	知的財産権の種類、番号	出願年月日(和暦)	取得年月日(和暦)